

わかりやすい 藤沢市の財政

2014

平成26年度予算と平成24年度決算から
藤沢市の財政状況を見てみよう



藤沢市の財政状況を
わかりやすく
解説しました。

藤 沢 市



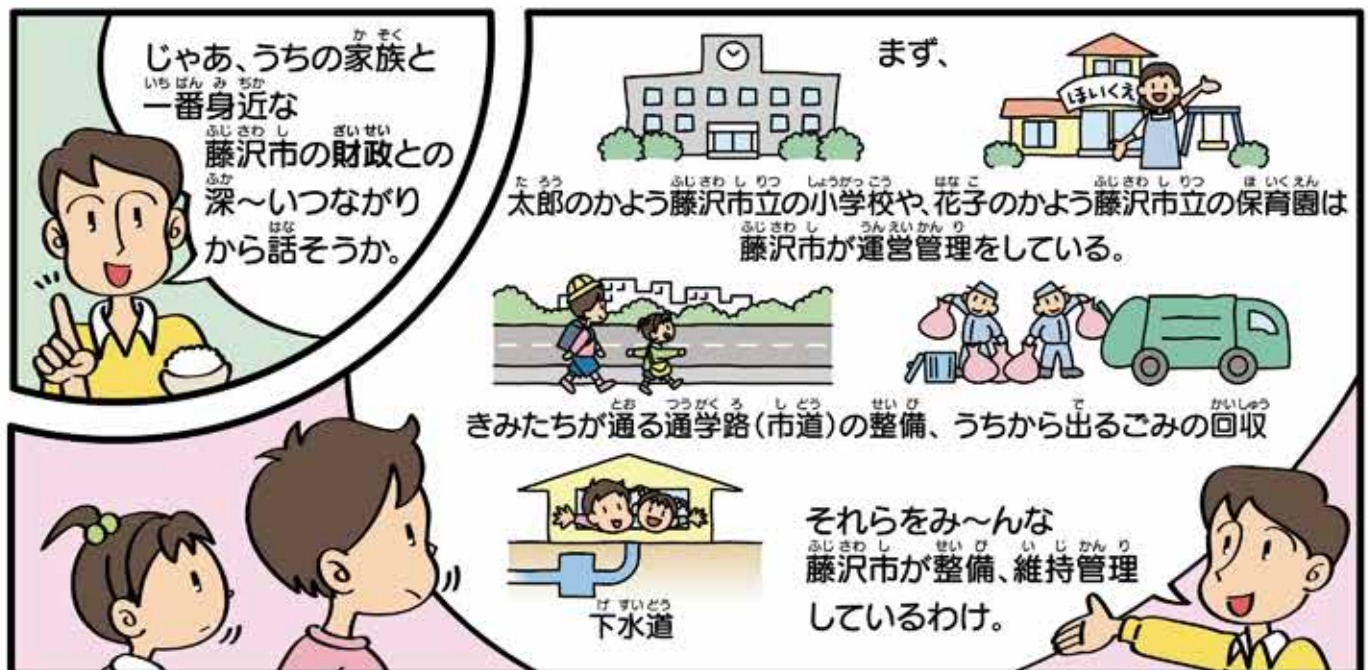
- もくじ ●1 みんながわかる財政のはなし(入門編)… 1
もっと知りたいあなたに
●2 平成26年度予算を見てみよう …… 7
●3 藤沢市の台所事情は? …… 12
●4 藤沢市の借金はどうなっているの? …… 17
●5 藤沢市の貯金はどれくらい? …… 21
●6 これから先も
藤沢市の財政は本当に大丈夫なの? …… 22
●7 財務書類4表でわかる藤沢市の財政状況 …… 23
● 藤沢市の借金時計 …… 裏表紙

1

みんながわかる財政のはなし ざいせい 入門編 にゅうもんへん

みなさんは「財政」ということを聞いたことがありますか？ 藤沢市の「財政」はみなさんの生活と密接に関係しているといえます。ここでは、主人公 藤沢太郎さん(小学3年生)と太郎さんの家族の生活をとおして、藤沢市の「財政」がどのようなものかを見てみます。

1 「財政」ってどういうこと？ ざいせい





2 「予算」ってどうやって決めるの？



ここで問題です！

Q1. 神奈川県には、横浜市や川崎市などの大都市も
含めて19の市がありますが、
藤沢市の「一般会計」の「予算」の額の多さは
19市のうち何番目でしょうか？

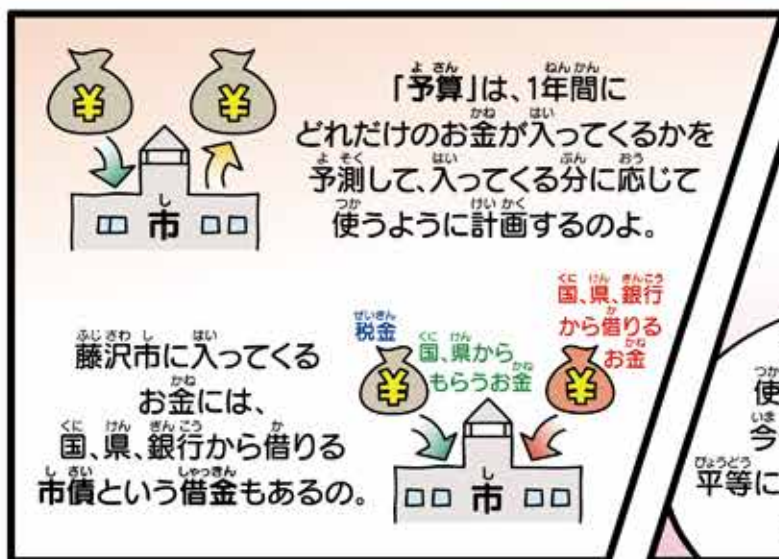
- ①1番目 ②5番目 ③10番目

クイズのこたえは、このページの
下にあります。



Q1のこたえ：② 横浜市、川崎市、相模原市、横浜原市、横浜原市に次ぐ5番目です。

3 使うお金はどうやって集めるの？





クイズ それではふたたび問題です!



Q2. 藤沢市の「借金」は
市民1人あたりいくらでしょうか?

- ① およそ3万4千4百円
- ② およそ34万4千円
- ③ およそ344万円

クイズのこたえは、このページの下にあります。



よしっ
ガンバロン!



コラム

借金してもだいじょうぶ?

藤沢市はどのような理由で借金をするのでしょうか。
太郎さんの通学する小学校の建て替え工事に例えてみましょう。



もしも...



小学校の建て替えに
20億円以上の支払いが必要です

結果



一度に払ってしまうと、小学校、保育園の運営管理、
通学路の整備、ごみの回収、下水道の維持管理にお金がたりない

そこで...

学校の校舎などずっと使用していくものは、今使う人も将来使う人も平等に
みんなで支払いをしていくことにしているのです。



藤沢市が集めたお金のほかに借金をします



長い間に分けて借金を返していきます



未来



それでは最後の問題です!

Q3. 藤沢市の「貯金」(「基金」)は
市民1人あたりいくらでしょうか?

- ① およそ3千5百円
- ② およそ3万5千円
- ③ およそ35万円

クイズのこたえは、このページの下にあります。



全問正解
100%

4 使ったお金はどうやって確認するの?



入門編はここまで。次のページからは「財政」の詳しいことが書いてあります。

© 2018 藤沢市 財政部 財政課

2

もっと知りたいあなたに 平成26年度予算を見てみよう

1 市のお財布はどうなっているの？

藤沢市の予算は、一般会計、特別会計、公営企業会計の3種類の会計があります。お財布で言えば3種類のお財布があって、お金の出し入れをします。



1,312億
8,700万円

一般会計

一番大きいお財布が「一般会計」です。

福祉・子育て・道路整備などのまちづくりに必要なお金を経理する会計です。家計に例えると生活費に使うお金の出し入れするお財布です。

平成26年度の当初予算の額は、1,312億8,700万円になっています。

次のお財布は「特別会計」です。

お金の出入りをはっきりさせるために、一般会計とは別にしています。藤沢市には、「国民健康保険事業費」や「区画整理事業費」など8の特別会計があります。

765億
8,294万円

特別会計

- 北部第二(三地区)土地区画整理事業費 18億2,271万円
- 競輪事業費 25億1,516万円
- 墓園事業費 5億8,182万円
- 国民健康保険事業費 417億8,270万円
- 柄沢特定土地区画整理事業費 12億1,772万円
- 湘南台駐車場事業費 1億4,790万円
- 介護保険事業費 237億8,504万円
- 後期高齢者医療事業費 47億2,989万円

442億
4,338万円

公営企業会計

最後のお財布が「公営企業会計」です。

普通の会社と同じように、利用した人から料金をもらって事業を行っているお財布です。

藤沢市には下水道と病院の二つの公営企業会計があります。

- 下水道事業費 213億1,016万円
- 市民病院事業 229億3,322万円



全会計 **2,521億1,332万円**

2 市の歳入(1年間の収入)はどんな状況ですか?



では、みなさんに一番身近で、一番お金の出入りが大きい一般会計のお財布を例に、平成26年度の歳入がどのようになっているのか見てみましょう。



藤沢市の歳入には、自主財源と依存財源があります。

自主財源
911億5,447万円

みなさんに納めていただく市税やごみ処理手数料など、藤沢市が自主的に財源として集めることができる収入です。



市民のみなさん

藤沢市

依存財源
401億3,253万円

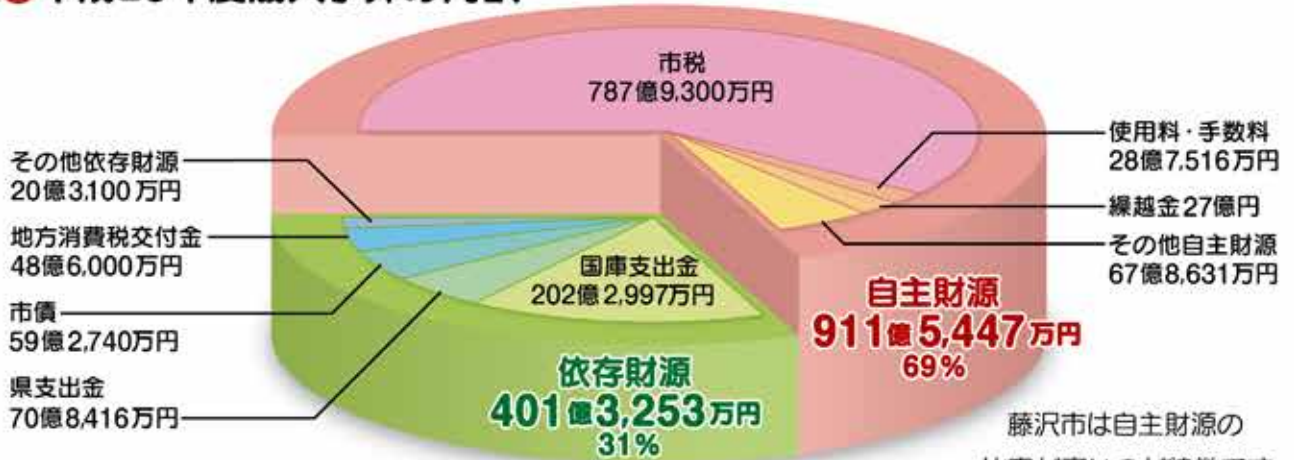
道路や施設をつくる時に国からもらう補助金や、借り入れる市債など、国が定めた額を交付されたり、割り当てられたりする収入です。



国や県

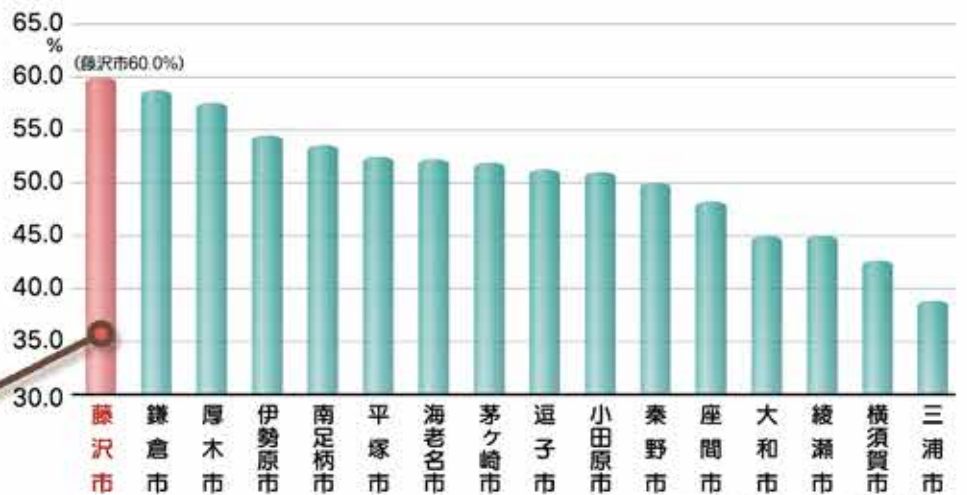
藤沢市

●平成26年度歳入予算の内訳



●歳入予算に占める市税の割合

藤沢市は
県内16市中
第1位です



● 予算規模の推移

■ 一般会計 ■ 特別会計・公営企業会計

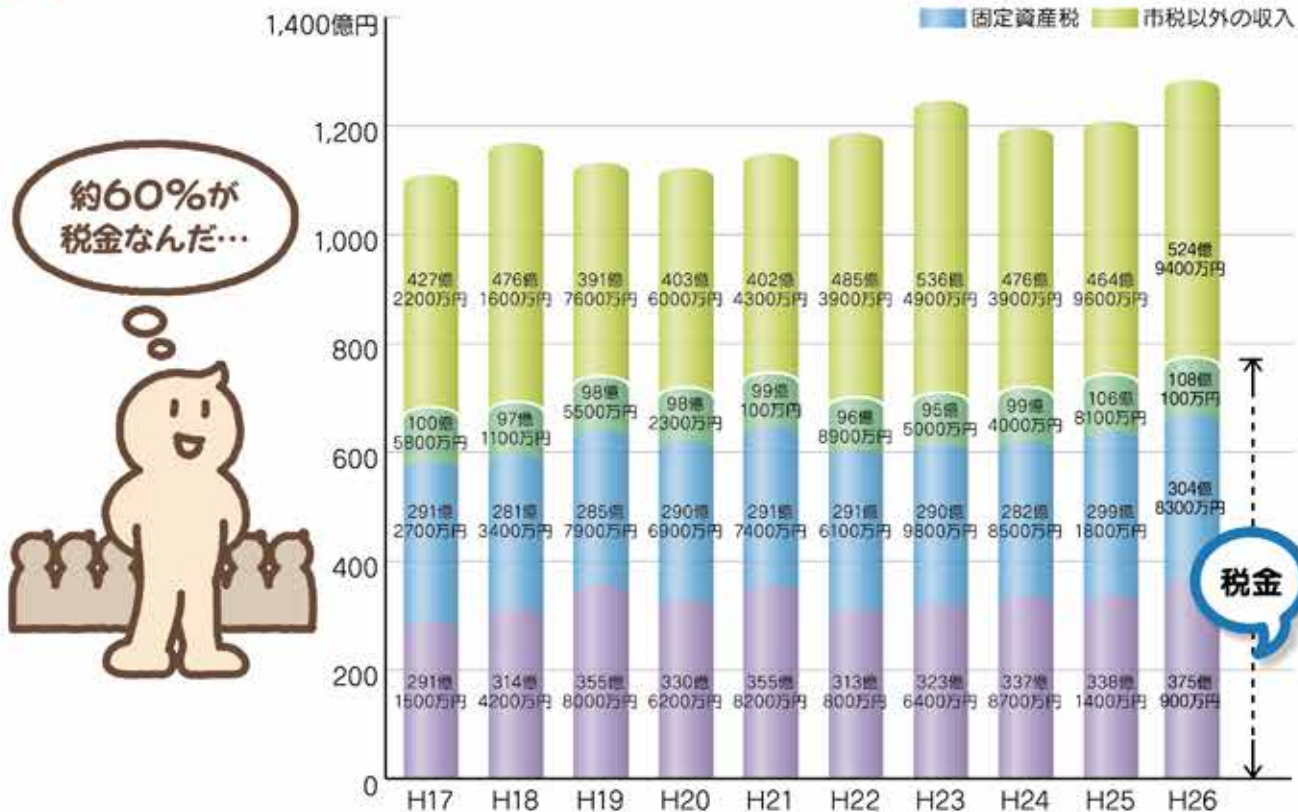


平成26年度の一般会計の当初予算は、投資的経費の増のほか、臨時福祉給付金や子育て世帯臨時特例給付金等の新設に伴う補助費等の増などにより、前年度の当初予算に比べ増加しています。

特別会計・公営企業会計の当初予算は、国民健康保険事業における医療給付費や介護保険事業における介護給付費の伸び、また下水道の管きょ建設等の工事費の増や市民病院の施設整備費の増などにより前年度の当初予算に比べ増となっております。

● 一般会計歳入予算に占める市税の推移

■ 市民税 ■ その他の市税
■ 固定資産税 ■ 市税以外の収入



市民税や固定資産税などの市税収入は、一部企業の業績好調による法人市民税の増などから、市税収入自体が前年度比5.9%の増となっているものの、歳入予算全体に占める割合は、国庫支出金、県支出金の増や大規模事業に係る市債の増などにより、前年比-1.5%の60.0%となっています。

3 市の歳出(1年間の支出)はどんな状況ですか?

入ってきたお金は、どのように使われているのでしょうか。今度は歳出について見てみましょう。

市では、道路や学校をつくったり、火災や急病に備えて消防車や救急車を用意したり、そのほか子育てや福祉などさまざまな事業にお金を使っています。

では、何にお金を使っているのでしょうか? 簡単に説明すると次のようになります。



●目的別のお金の使い道



総務費
市民センターや市民会館の運営、広報ふじさわの発行、税金の徴収や住民票の発行などに使われます。

環境保全費
交通安全や防犯対策、また公害防止や緑地の保全などに使われます。

民生費
保育園の運営費、小児医療、高齢者や障がい者などの福祉に使われます。

衛生費
ごみを集めたり処理したりする経費や保健所の運営などに使われます。

商工費
商店街や中小企業を応援したり観光施設の管理などに使われます。

土木費
道路や橋を整備したり、公園をつくったり、市営住宅の管理などに使われます。

消防費
消防車や救急車を管理したり、消防署の整備などに使われます。

教育費
小・中学校の校舎や体育館、また公民館、図書館、スポーツ施設等の整備や運営に使われます。

公債費
大きな施設や道路をつくる時に、国や銀行などから借り入れたお金の返済に使われます。

その他
農業や水産業、働いている人や仕事を探している人を応援する事業などに使われます。

4 家計簿に例えて見ると

家庭と市役所では、お金の使い道が違うので単純に比べられません
が、例えば藤沢市の予算を年収500万円(月収41万円)の家計に置き換えて
みると…



藤沢市の予算

こうなります。

収 入		支 出	
市 税	787億9,300万円	人件費	262億 423万円
使用料、手数料など	123億6,147万円	扶助費	331億 531万円
【自主財源合計】	911億5,447万円	物件費	223億7,440万円
国・県支出金など	342億 513万円	投資的経費・維持補修費	139億7,976万円
市債の発行	59億2,740万円	公債費	83億6,745万円
【依存財源合計】	401億3,253万円	繰出金・補助費など	237億1,333万円
収入の合計	1,312億8,700万円	積立金・貸付金	35億4,252万円
		支出の合計	1,312億8,700万円

1カ月の家計簿に例えると…

こんな感じになります。

収 入		支 出	
お父さんの給料	24万6,000円	食 費	8万2,000円
お母さんのパート代	3万9,000円	医療費・保育料	10万3,000円
【給料等の合計】	28万5,000円	光熱水費や被服代	7万円
その他臨時収入	10万7,000円	家の増築・修理、家財購入	4万4,000円
銀行からの借入	1万8,000円	住宅ローン返済	2万6,000円
【臨時収入の合計】	12万5,000円	子どもへの仕送り	7万4,000円
収入の合計	41万円	貯 金	1万1,000円
		支出の合計	41万円

このほかにローンの残高や預貯金の残高は、どうなっているのでしょうか？

ローンの残高(市債残高) 741億36万円 家計簿に例えると 282万2,000円
 預貯金の残高(基金残高) 112億8,546万円 家計簿に例えると 43万円

※平成24年度一般会計の決算額をもとにしています。

収入ではお父さんやお母さんの給料で69.5%を占めています。年間の借金も
多くはありませんね。

支出では、医療費やローンの返済、子どもへの仕送りなど、なかなか節約が難
しい経費が大きいですね。



3

藤沢市の台所事情は？


1 今度は平成24年度普通会計決算から藤沢市の台所事情を見てみましょう。

● 性質別のお金の使い道

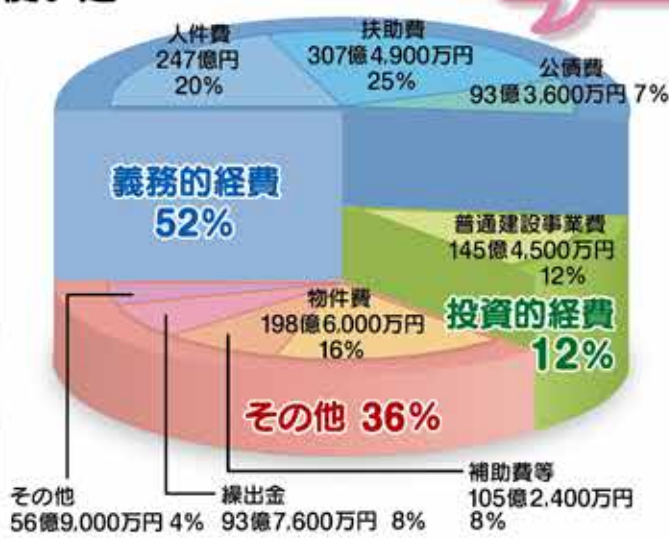
総額1,247億8,000万円



扶助費
生活困窮者、子ども、高齢者、障がい者などを援助するために使われます。



繰出金
国民健康保険事業や土地区画整理事業などに対して事務費や建設費を援助するために使われます。




公債費
国や銀行などから借り入れたお金の返済に使われます。



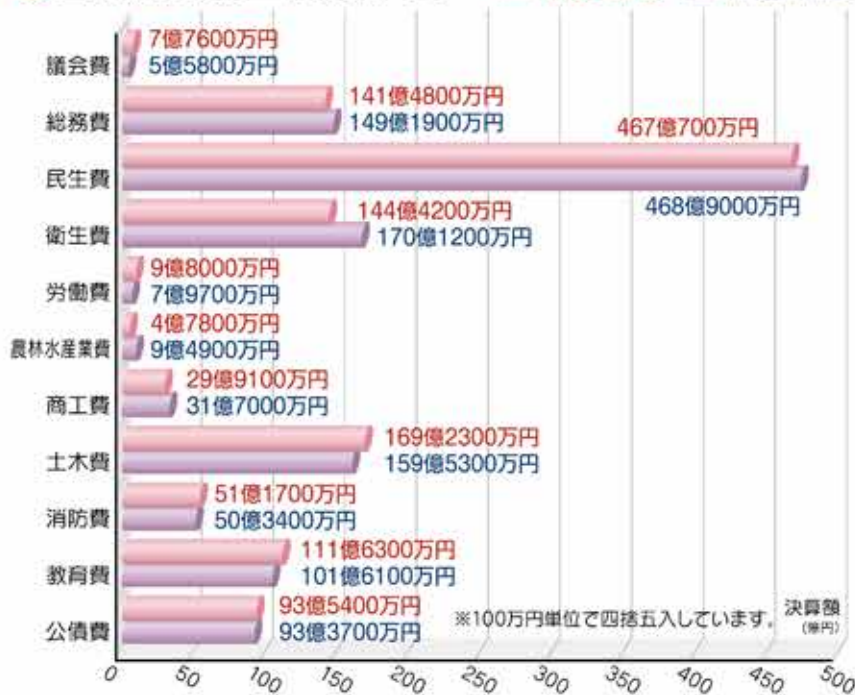
普通建設事業費
道路、橋りょう、公園、学校などの社会資本の整備に使われます。



補助費等
下水道事業や病院事業に対する負担金、幼稚園や保育所への補助金などに使われます。

● 目的別のお金の使い道

平成23年度 平成24年度



★ 普通会計とは？

他市町村との比較に使用します。市町村ごとに会計の範囲が異なり、財政状況の比較が困難なため、統計上用いる会計区分です。

藤沢市の普通会計は、一般会計と3つの特別会計(墓園事業費、北部第二(三地区)土地区画整理事業費、柄沢特定土地区画整理事業費)です。



2 義務的経費について見てみましょう。

人件費、扶助費、公債費は毎年の支出が義務づけられ節減することが難しいため「義務的経費」と分類されます。

義務的経費の割合が高くなると自由に使えるお金が少なくなり、新しい市民サービスや公共施設の建設などが難しくなります。

人件費、扶助費、公債費の10年間の推移を見てみましょう。



● 義務的経費の推移



- 人件費は、増減はありますが定員削減などにより減少してきています。
- 扶助費は10年間で約168億円増加しました。平成24年度は障がい福祉費が増加したものの、子ども手当が児童手当に制度変更されたことによる減少などにより、前年度に比べて増加率が減少し、約1億8千万円の増加となっています。
- 公債費は、10年前より減少していますがほぼ横ばい状態です。

歳出全体に占める義務的経費の割合はどうなっているのでしょうか。

● 歳出全体に占める義務的経費の割合



- 義務的経費は10年間で136億円(26.5%)増えました。歳出全体に占める割合は、平成22年度に50%を超え、平成24年度は51.9%と平成23年度と比較して、1.2ポイント減少しているものの、依然50%を超えています。

3 「経常収支比率」は台所事情をあらわします。

★経常収支比率とは？

自由に使えるお金がどのくらいあるかがわかります。

社会経済や市民ニーズの変化に的確に応えていくための財源がどの程度確保されているかを示します。

算出方法は、

毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源

毎年度経常的に収入される一般財源

です。

給料に占める食費やローンの返済額の割合と同じで、比率が低ければ自由に使えるお金が多くなります。



●経常収支比率の推移



都市部では70～80%程度が望ましいと考えられています。80%を超えると財政構造の弾力性が失われつつあると言われていますが、大多数の市が80%を超えており、平成24年度決算の全国都市平均は90.2%となっています。

藤沢市は平成15年度に88.8%まで上昇したあと、平成18年度までは臨時財政対策債の発行や市税等の増収により81.9%まで低下しました。その後、法人市民税を中心とした市税の減、扶助費等の経常的経費の増により上昇を続け、平成23年度は91.1%となりましたが、平成24年度は市民税の増、扶助費の増加率の低下により89.6%に低下しています。

★一般財源とは？

使い道が特定されない何にでも使える収入のことです。主なものに市税、国からの譲与税、赤字債である臨時財政対策債などがあります。



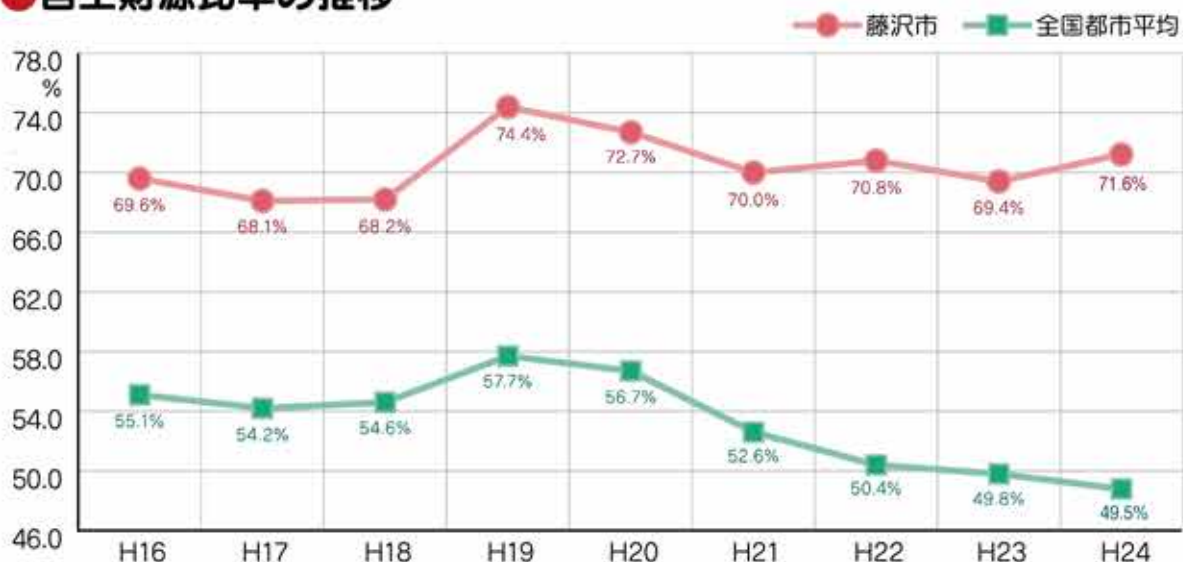
4 「自主財源比率」は財政の安定度をあらわします。

★自主財源比率とは？

財政の安定度や健全度を示す指標です。

市税や使用料・手数料などの自主財源が歳入全体に対してどの位の割合になるかをあらわし、比率が高いほど財政基盤の安定性があります。

●自主財源比率の推移



全国都市平均は平成19年度以降低下傾向にあり、平成24年度では49.5%まで低下しました。藤沢市は平成24年度は71.6%と市民や企業の担税力に支えられ、全国都市平均を上回る高い率となっています。

ここでひと休み

扶助費は何が増えているのでしょうか？



子ども、生活困窮者、障がい者に対する扶助費が増えています。5年前と比較し116億円の増加。特に児童福祉費は、66億円、88.2%増となっています。

老人福祉費の割合が少ないのは、これとは別に、介護保険事業費や後期高齢者医療事業費の特別会計で約258億円を支出しているからなんだ！

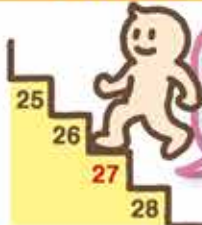


5 財政指標ランキングコーナー!!

藤沢市の財政指標のランキングがわかるコーナーです。

財政状況を見る財政指標にはいろいろありますが、ここでは主な財政指標を取り上げました。

財政力指数



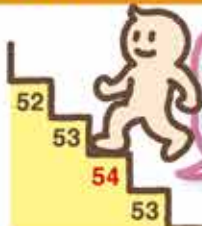
★財政力指数
0.994は全国で
第27位!

県内16市中第3位

財政力指数は、標準的な行政活動を行うために必要な財源を、どの程度自力で調達できるかを見る指数です。指数が大きいほど財政力が強く、1未満になると国から普通交付税が交付されます。平成24年度は0.994(単年度数値)となったため交付団体となりました。



実質収支比率

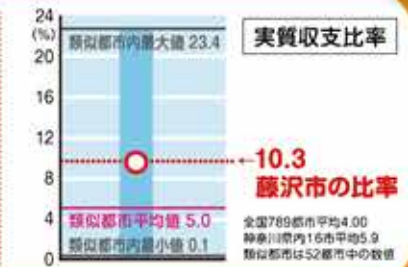


★実質収支比率
10.3は全国で
第54位!

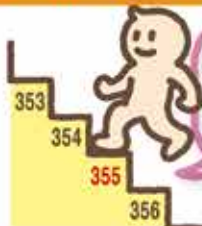
県内16市中第2位

歳入歳出の形式的収支から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支額(黒字または赤字額)が、標準財政規模に対してどの位の割合になるかを表すものです。

よりわかりやすく言うと黒字率や赤字率を見る指標です。



経常収支比率



★経常収支比率
89.6は全国で
第355位!

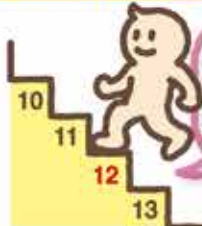
県内16市中第3位

扶助費や人件費など経常にかかる経費に対して、市税や各種交付金など経常に入ってくる一般財源をどの位の割合で使っているかを表すもので、財政の弾力性や硬直度を見る指標です。

この比率が高いほど財源の余裕がなくなり、政策的に使えるお金が少なくなります。



自主財源比率

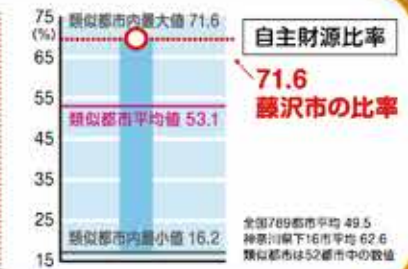


★自主財源比率
71.6は全国で
第12位!

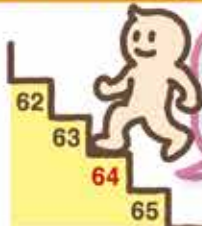
県内16市中第2位

市税や使用料・手数料などの自主財源が歳入全体に対してどの位の割合になるかを表し、財政の安定度や健全度を示す指標です。

この比率が高いほど財政基盤の安定性があります。



公債費負担比率



★公債費負担比率
9.9は全国で
第64位!

県内16市中第3位

公債費に充当された一般財源が一般財源総額に対してどの位の割合になるかを表すものです。

公債費がどの程度一般財源の使用の自由度を制約しているかをみることで、財政構造の弾力性を判断することができます。



※注1:いずれの財政指標も平成24年度決算に基づく財政指標です。

※注2:県内16都市は、政令市(横浜市・川崎市・相模原市)を除いた市です。

※注3:類似都市は、人口15万人以上、産業構造の2次及び3次産業が95%未満、3次産業が55%以上の52都市です。

4

藤沢市の借金は どうなっているの？

1 借金はどれくらい？

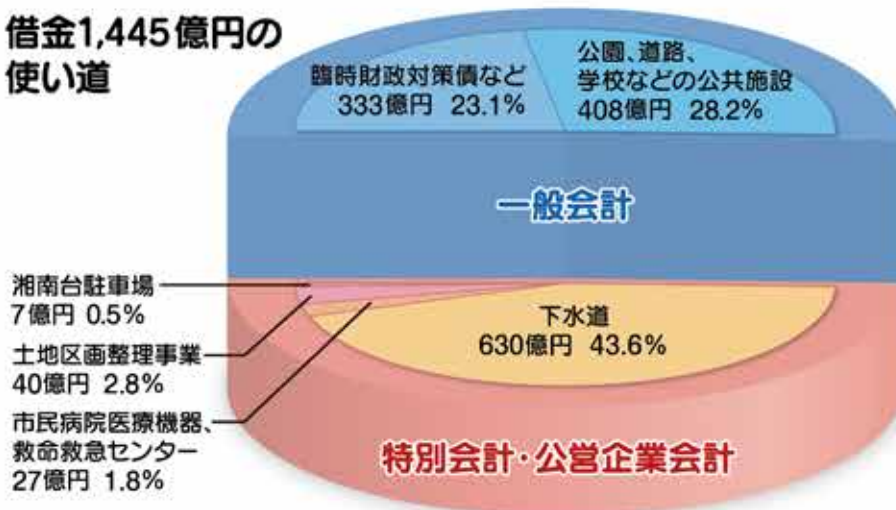
藤沢市の借金は、平成24年度に約76億円を新たに借り入れて、約132億円返済しました。

借金残高は、市全体で約1,445億円です。



- 借金は、主に公園、道路、学校、下水道などの公共施設の整備に使われています。

借金1,445億円の 使い道



市民1人あたりにすると
平成24年度中に
新たな借り入れ…約1万8千円
元金返済……………約3万2千円
残高……………約34万4千円



市民
1人あたりの
金額です…

●借金残高の推移



大規模な建設事業などが減少していることや、過去に借り入れた借金の返済が進んでいるため、残高は年々減少しています。

★借金は他の市と比べて多いの？ 少ないの？

市民1人あたりを県内16市で比べると、少ない方から3番目です。(普通会計という区分で比較)
(横浜市、川崎市、相模原市を除く県内16市)

県内少ない方から

3番目

藤沢市 約19万円	最高 A市 約58万円	最低 B市 約2万円	16市平均 約24万円
--------------	----------------	---------------	----------------

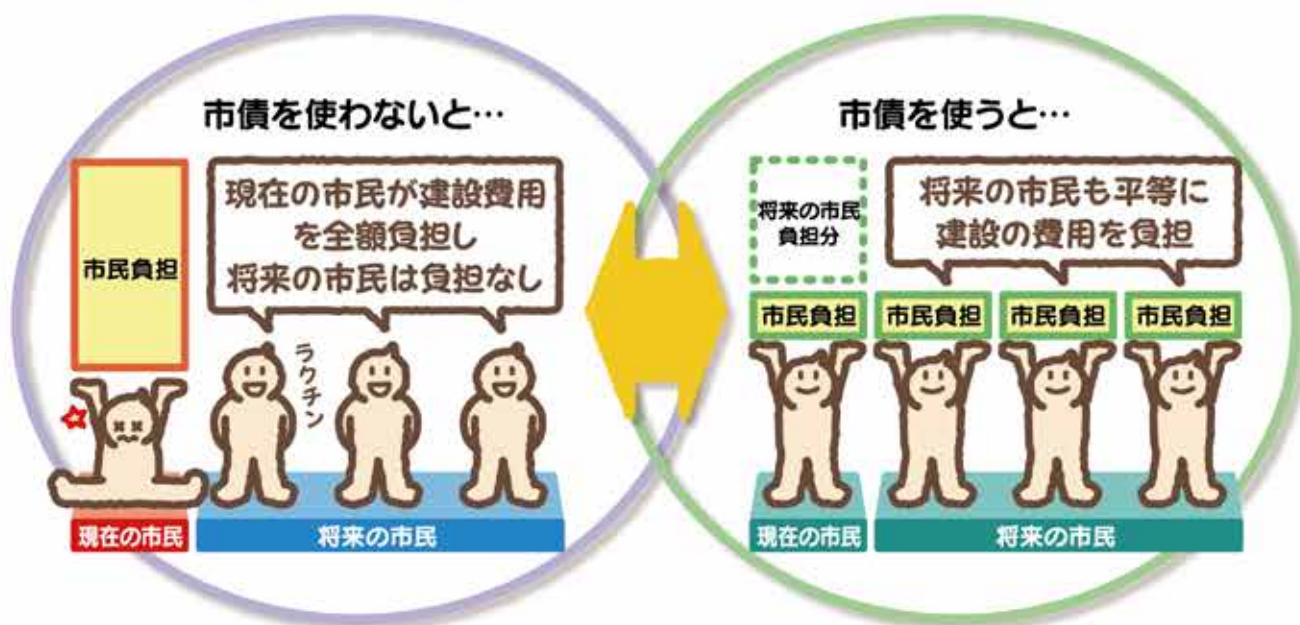


2 どうして借金をするの？

- 「現在の市民と将来の市民の負担を公平にする役割」と「毎年の財源を平均する役割」があります。

公共施設の整備には一時期に多額のお金が必要になります。これをその年の収入だけで賄ってしまうと他の仕事ができなくなってしまいます。

また、公共施設は現在の市民だけではなく、将来の市民も利用するものであるため、負担の公平性を図る観点から、市債を活用して平等に費用の負担をお願いしています。



●借入額の推移



借入額が大きかった平成20年度は辻堂駅周辺地域都市再生事業や第一中学校改築事業などの実施、また、平成22年度は本町小学校改築事業などの実施により増加しましたが、その後は大規模な建設事業の減少により借入額も減少しています。

市債？ 国債？

市の借金のことを「市債」
国の借金は「国債」・県の借金は「県債」

どこからお金を借りているの？

国、県、銀行などから借りています。

3 借金の返済額は妥当なの？

●健全化判断比率から見てみよう

借金の返済額が身の丈にあったものかどうかを判断する基準に「実質公債費比率」というものがあります。

収入に対して返済額がどの程度の割合になるのか、借金返済の負担が多すぎないかをチェックするものです。

借金返済になる可能性が高いとされる目安25%に対して、藤沢市は3.4%(平成24年度決算)で良好な状態にあります。

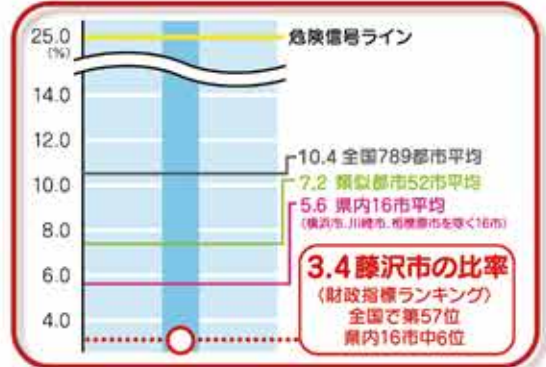


家計に例えると(実質公債費比率)

家や車のローン、クレジットカードで買い物をした支払いなど、その年の返済額が年収の25%以上となった場合、借金返済になる可能性が高いという危険信号を示しています。



●実質公債費比率(他市との比較)



●返済額の推移



返済総額と元金返済額はほぼ横ばいですが、利子返済額は借入れ利率の低下により減少しています。

★財政の健全度を診断する指標「健全化判断比率」って？

財政破綻を未然に防ぐことを目的に「財政健全化法」という法律ができ、財政の健全度を診断する指標「健全化判断比率」を議会や市民のみなさんに毎年公表することが義務づけられました。

健全化判断比率は、4つの指標①実質赤字比率②連結実質赤字比率③実質公債費比率④将来負担比率があり、赤字や負債(借金返済)の状況など4つの視点から示すものです。

①・②は年間の赤字の割合(①は一般会計等、②は全ての会計を対象)、③は借金の返済額の割合、④は将来の負担が見込まれる負債の割合をチェックするものです。

4 将来の市民に負担はかからないの？

●健全化判断比率から見てみよう

借金や数年間にわたる契約により約束された支払い、職員の退職金など、将来支払わなければならない負債が、収入に対してどの程度なのかを示す指標として、「将来負担比率」というものがあります。負債にかかる負担が大きくないかをチェックするものです。

将来財政を圧迫する可能性が高いとされる目安350%に対して、藤沢市は23.8%（平成24年度決算）で良好な状態にあります。



家計に例えると(将来負担比率)

家や車のローンの残高、クレジットカードの支払い残高など、これから返済していかなければならない返済総額が、年収の3.5倍以上になった場合には、今後ローン返済などに追われ家計が成り立たなくなり、経済的苦境におちいる状態にあることを示しています。



●県内16市将来負担比率



藤沢市の比率は、県内16市中、将来負担が少ないほうから数えて5番目です。類似都市平均、全国平均から見ても良好な状態にあるといえます。

(横浜、川崎、相模原を除く県内16市)



健全化判断比率からみた平成24年度の藤沢市の財政状況は、いずれの指標も危険信号を示す基準値を下回っており、「健全段階」にあります。

●健全化判断比率

比率	藤沢市		早期健全化基準 (イエローカード)	財政再生基準 (レッドカード)
	H24	H23		
実質赤字比率	▲10.83	▲9.58	11.25	20
連結実質赤字比率	▲25.49	▲23.71	16.25	30
実質公債費比率	3.4	4.6	25	35
将来負担比率	23.8	33.1	350	

※実質赤字比率と連結実質赤字比率については、黒字である場合は負の値(▲)で表示しています。

★早期健全化基準・財政再生基準とは？

市の財政状況が悪化し、危うくなったときにイエローカード(早期健全化基準)で警告をします。

更に悪化し自主的に財政の立て直しができなくなったときは、レッドカード(財政再生基準)で、国・県の関与のもと、確実な財政の立て直しに着手することになります。



5

藤沢市の貯金はどれくらい? (財政調整基金について)

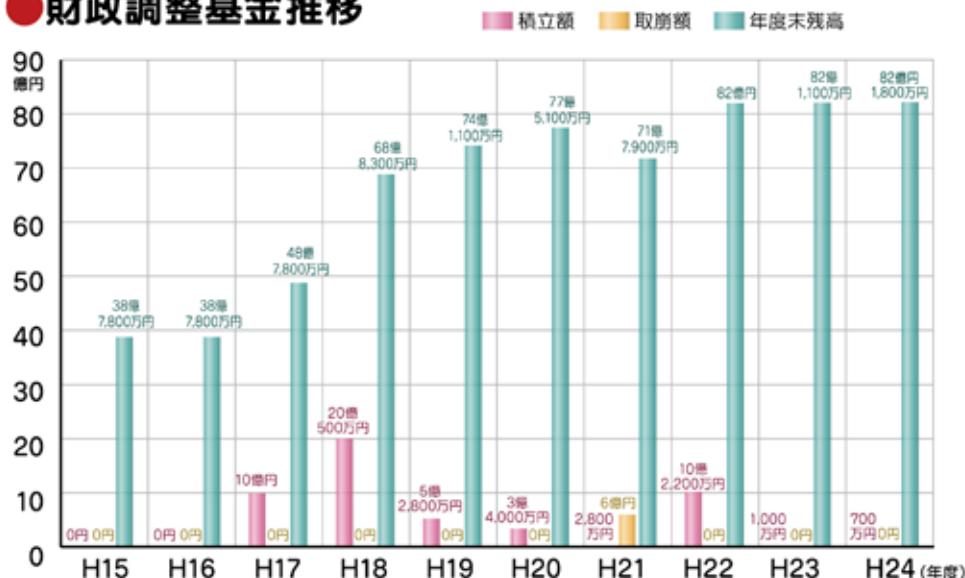
1 借金のことはわかったけど、貯金はあるの?

藤沢市には貯金に相当する「基金」というものがあります。基金は、それぞれの基金条例に基づき、寄附金や基金利子を積み立てて、基金の目的に応じて必要な時におろして使うものです。藤沢市は財政調整基金をはじめ、庁舎整備基金、環境基金、愛の輪福祉基金など、全部で12の基金を持っていて、平成24年度末の総額で約147億1千万円、市民1人あたり3万5千円の貯金があります。



※基金数は平成24年度末現在のものです。

● 財政調整基金推移



いろいろな基金の中でも、いざという時のためや大きな出費が必要になった時などのために積み立てているのが「財政調整基金」なんだ。「財政調整基金」のここ10年間の推移を見よう。



平成21年度には貯金をおろしたということ?



そうです。
平成21年度は、住民参加型市場公債券の償還財源と急激な景気後退等により減少した各種交付金の補てん財源として基金を取り崩しました。



いざという時のためには、貯金があった方が安心だね



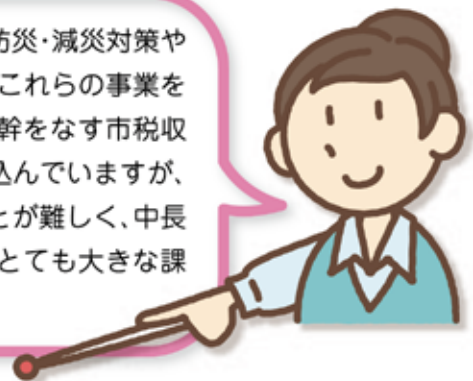
そう、そのために今後も経済状況の落ち込みに伴う税収減による財源不足や、地震や台風などの災害への備え、多額の費用を要する大規模事業の備えとして、余裕のある時には財政調整基金に積み立てていく必要があります。

6

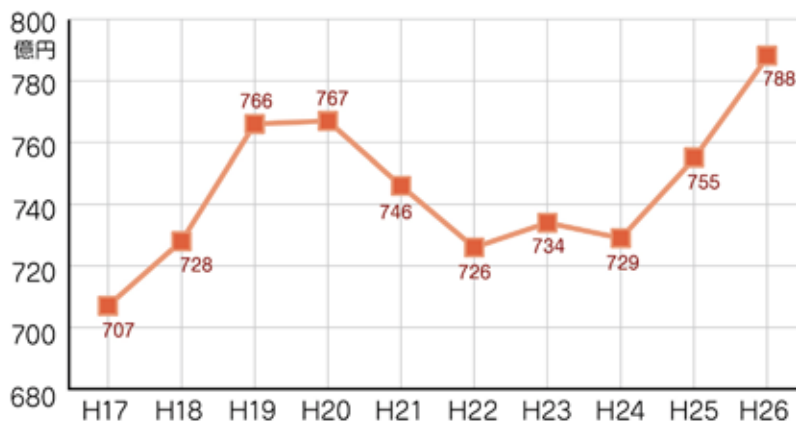
これから先も藤沢市の財政は本当に大丈夫なの？

1 総合的には全国的に見ても健全財政を保っているのはわかったけど、これから先、将来も本当に大丈夫なの？

これからの藤沢市のまちづくりでは、地震や津波発生時などの防災・減災対策や公共施設の老朽化対策など、数多くの事業が計画されています。これらの事業を実施していくためには多くの財源が必要となりますが、歳入の根幹をなす市税収入は、平成26年度予算では法人市民税の増収などにより増加を見込んでいますが、今後は税制改正に伴う減収の要素もあり、大きな増加を見込むことが難しく、中長期的には概ね横ばい状態で推移すると予測しており、財源確保がとても大きな課題です。



●市税収入の推移



※H17年度～H24年度は決算額 ※H25年度は最終予算額、H26年度は当初予算額

歳出面でも扶助費の増大により厳しい財政運営が中長期的に見込まれる状況にあります。このため、緊急性・重要性の高い施策を優先させるなど、事業の重点化・効率化を進める必要があります。さらに、公共施設の老朽化対策や新たな都市基盤整備等の課題事業については、長期的な視点での財政負担も考慮しつつ、最も経済的・効果的な整備手法を用いるなど、厳しい財政状況に対応したしっかりとした財政運営を行っていかねばいけません。

2 これから多くの公共工事をして大丈夫なの？

今後藤沢市は、庁舎の建て替え、藤沢駅周辺の整備等多くの事業を控えています。それぞれの事業について、国や県などからの補助金の確保を心がけ、できる限り一般財源の削減に努めていきます。これらの施設は、長期にわたり活用していくものですので、前のページで説明しました市債を活用していき、単年度の負担の平準化を図ります。この市債という借金をする際、財政の健全性を判断する指標である実質公債費比率を注視しながら事業計画を立て健全化の維持を図っていきます。

また、多くの事業の中で平成27年度に着手する予定の新庁舎の建て替えにつきましては、積み立てられた庁舎整備基金の活用もしていき、一般財源の軽減に努めていきます。



7

財務書類4表でわかる 藤沢市の財政状況

1 地方公会計制度改革とは？

地方公会計制度改革とは、現在の地方公共団体の会計制度(単式簿記・現金主義会計)に対して、民間企業等が採用する会計制度(複式簿記・発生主義会計※)の仕組みを導入しようとする取り組みの事です。



Q どうして制度改革が必要なの？



A

これまでの会計にはストック情報やコスト情報が不足しているといわれています。ストック情報とは、行政サービスを実施する上での市が持っているすべての資産や負債などの財産情報です。コスト情報とは、行政サービスの提供に必要な総費用の情報です。これらの情報を十分に開示するためには、公会計の改革が必要なのです。



Q 具体的にはどのようなことを行っているの？



A

財務書類4表(貸借対照表、純資産変動計算書、行政コスト計算書、資金収支計算書)を作成しています。これまでの会計では見えづらかったストック情報やコスト情報の開示に努めています。



貸借対照表を例にとって見てみましょう

貸借対照表は、年度末時点で市がどのような資産を持っているか、また、その資産をどのように手に入れたかを表すもので、ストック情報について確認することができます。



これまでの会計では見えづらかった資産についての情報はこの表によって確認できます。

資産の部 1 公共資産 ● 土地、建物 ● 売却可能資産 2 投資等 ● 投資及び出資金 ● 貸付金 3 流動資産 ● 現金預金 計 ○○○円	負債の部 1 固定負債 2 流動負債 計 ○○○円 純資産の部 1 国・県補助金等 2 一般財源等 計 ○○○円
---	---

資産の部では、市が持っている道路や学校などの「今の価値」をお金で表しています。

左側の下には資産の部の合計があります。これが藤沢市の資産の合計となります。



(※)発生主義会計…お金のやり取りの原因となる事実が発生した日を基準にしたもので、これからの支払いや受け取りの予定が決まっているお金の状況なども明らかになります。

市のあべの資産がわかるんだね!



貸借対照表の右側(負債の部、純資産の部)では、資産をどのように手に入れたのかを示しています。



負債の部と純資産の部は、資産をどのように手に入れたのかを財源ごとに一覧にしたものです。

資産の部 1 公共資産 ● 土地、建物 ● 売却可能資産 2 投資等 ● 投資及び出資金 ● 貸付金 3 流動資産 ● 現金預金 計 ○○○円	負債の部 1 固定負債 2 流動負債 計 ○○○円 純資産の部 1 国・県補助金等 2 一般財源等 計 ○○○円
---	---

負債とは地方債など、将来現金が出て行くことを表しているもので、将来世代の負担といえます。

純資産とは市税や国・県からの補助金などで、現在までの世代の負担といえます。



次に、行政コスト計算書を見てみましょう

行政コスト計算書は、市が提供した行政サービスにどれだけ費用(コスト)がかかり、それをどのような収入でまかなったのかを表すもので、コスト情報について確認することができます。



人にかかるコストや物にかかるコストなど、その性質によって4種に分類しています。下には市の行政コストの合計額があります。

保育料、住民票の写しの発行手数料などの集計です。

市税や国・県からの補助金などです。

① 経常行政コスト 人にかかるコスト 物にかかるコスト 移転支出的なコスト その他のコスト 計 ○○○円
② 経常収益 使用料・手数料 分担金・負担金・寄附金 計 ○○○円
③ 純経常行政コスト (①-②)

計算書の上段①は行政サービスに要したコスト全体を表しています。

中段②はサービスを利用した方が支払う使用料や手数料などを表しています。

下段③は、コスト全体から、使用料など行政サービスを利用した方の負担額を差し引いた額を示しています。

②を①で割ると行政サービスを利用している人が負担している割合がわかります。残りの割合は市税などでまかなわれています。



ストック情報、コスト情報が明らかになると、より正確な財政状況の把握ができます。

財務書類4表のうち、2つの表の見方についてお示しましたが、ストック情報やコスト情報が明らかになると、財政状況について、より正確な把握ができるようになり、行政運営管理やコスト分析による事業評価といった市のマネジメント機能が向上するとともに、市民や議会への情報開示も十分に実施できることから、アカウントビリティ(説明責任)を果たすことができます。

今後は財務書類4表について、国が統一の基準を作ることを予定しているため、藤沢市はその情報収集に努めながら、引き続き公会計制度改革に取り組んでいきます。

とても難しいと思っていたけれど、なんとなく表の見方がわかってきたぞ！ 次のページも見てみよう



2 藤沢市にはどのくらいの資産があるのだろうか？

貸借対照表を見れば、藤沢市の資産、負債、純資産が一目でわかります。
資産、負債、純資産の割合を円グラフで表すと次のようになります。



●平成24年度 藤沢市 普通会計 貸借対照表における資産・負債・純資産の割合



藤沢市の資産は、これまでの世代の負担(純資産)によって築かれたものが大部分を占めていることがわかります。

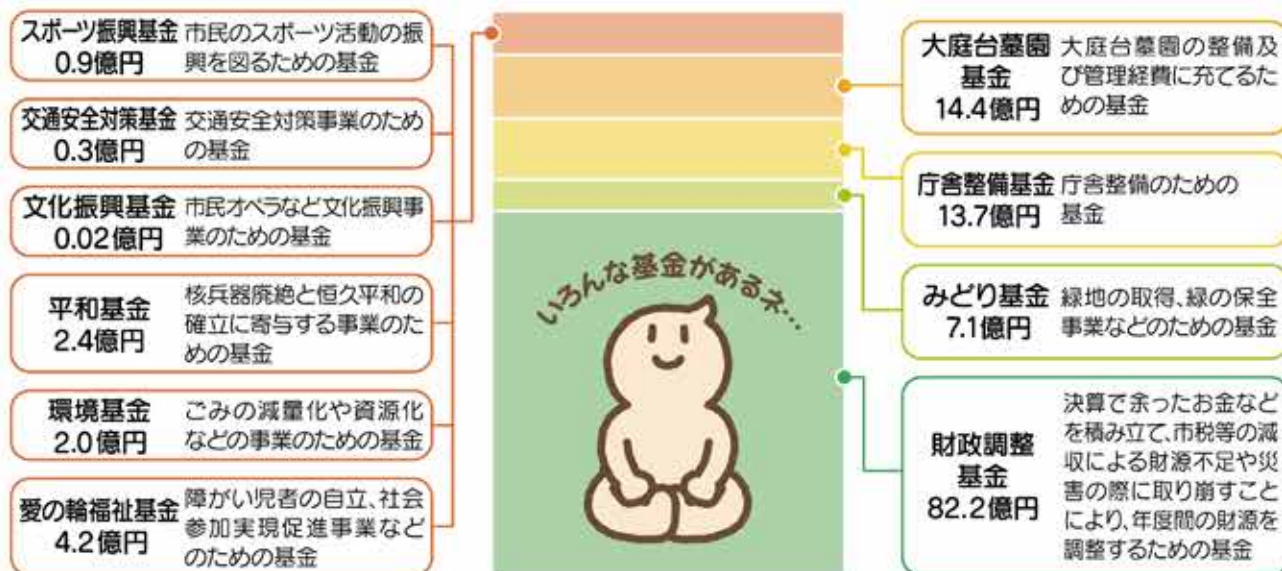
将来世代の負担となる負債は、資産に対して7.9%となっています。

資産の中には、これまで積み立ててきた市の貯金ともいえる基金があります。

基金には寄附金や基金運用利子などを積み立て、それぞれの基金の目的に応じた事業に使います。



●平成24年度 藤沢市 普通会計 基金残高



市が持っているすべての資産や負債などのストック(財貨の貯蔵量)の状況を表したものが貸借対照表です。

貸借対照表の左側(借方)には資産が、右側(貸方)の上部には資産の取得のために借り入れた借金などの負債が、右側(貸方)の下部には、借金以外の資産取得の財源である純資産がそれぞれ表示されます。



資産 = 負債 + 純資産

●平成24年度 藤沢市 普通会計貸借対照表 (平成25年3月31日現在)

	借 方	貸 方	
土地、建物、構築物、備品など	[資産の部]	[負債の部]	借り入れた市債のうち翌々年度以降の償還予定額
有形固定資産のうち未利用資産で売却が可能なもの	1.公共資産 1兆4,420.1億円	1.固定負債 1,072.6億円	全職員が年度末に自己都合退職したと想定した場合の退職手当額最大どれくらいの額が必要か見るためのもの
	(1)有形固定資産 1兆4,407.5億円	(1)地方債 699.0億円	
	(2)売却可能資産 12.6億円	(2)長期末払金 181.0億円	
下水道などの企業会計や市出資団体などに対する出資金	2.投資等 491.3億円	(3)退職手当引当金 192.6億円	借り入れた市債のうち翌年度の償還予定額
	(1)投資及び出資金 425.5億円	(4)損失補償等引当金 -	
みどり基金など特定目的基金の残高	(2)貸付金 0.1億円	2.流動負債 121.6億円	翌年度に支払うことが予定されている賞与のうち、24年度の勤務により発生する負担相当額
市税等の収入未済額のうち23年度以前に発生した分のうちの未収額	(3)基金等 45.1億円	(1)翌年度償還予定地方債 82.3億円	
	(4)長期延滞債権 26.5億円	(2)短期借入金 -	
転居先不明等の理由で市税等の回収が困難であると見込まれる額	(5)回収不能見込額 △5.9億円	(3)未払金 11.4億円	これまで資産や投資の取得財源として充てた額の累計
財政調整基金 + 歳計現金	3.流動資産 172.8億円	(4)翌年度支払予定退職手当 14.8億円	市債のうち赤字債は資産の形成を伴わず、償還には今後の税收などを充てるため、この分は将来の一般財源が拘束されている。
	(1)現金預金 166.1億円	(5)賞与引当金 13.1億円	
市税等の収入未済額のうち24年度に発生した分のうちの未収額	(2)未収金 6.7億円	負債合計 1,194.2億円	資産を時価評価したことにより、取得時よりも資産価値が上がっていることを表している。
	資産合計 1兆5,084.2億円	[純資産の部]	
		1.公共資産等整備国庫補助金等 850.2億円	
		2.公共資産等整備一般財源等 5,538.6億円	
		3.その他一般財源等 △377.4億円	
		4.資産評価差額 7,878.6億円	
		純資産合計 1兆3,890.0億円	
		負債・純資産合計 1兆5,084.2億円	

△表示はマイナスを表します。

●市民1人あたりの貸借対照表の値をみると

平成25年3月31日現在
藤沢市人口420,202人



市民1人あたりの有形固定資産

342万9千円



市民1人あたりの負債

28万4千円

3 純資産ってなんだろう？



純資産は、貸借対照表の右側(貸方)の下部に表示され、その左側(借方)の資産を取得する際の財源を表し、負債以外の財源を表しています。

純資産額が前年度末(期首)に比べ、どのように変動したかを示したものが純資産変動計算書です。

●平成24年度 藤沢市 普通会計純資産変動計算書

〔自平成24年4月1日〕
〔至平成25年3月31日〕

	純資産合計	公共資産等 整備 国県補助金等	公共資産等 整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	1兆3,864.7億円	844.0億円	5,526.6億円	△394.6億円	7,888.7億円
純経常行政コスト	△1,069.3億円			△1,069.3億円	
一般財源					
地方税	762.7億円			762.7億円	
地方交付税	6.1億円			6.1億円	
その他行政コスト充当財源	78.4億円			78.4億円	
補助金等受入	257.8億円	30.5億円		227.4億円	
臨時損益					
災害復旧事業費					
公共資産除売却損益	1.1億円			1.1億円	
投資損失					
損失補償等引当金繰入等					
科目振替※					
公共資産整備への財源投入			67.2億円	△67.2億円	
公共資産処分による財源増			△2.8億円	3.7億円	△0.9億円
貸付金・出資金等への財源投入			52.5億円	△52.5億円	
貸付金・出資金等の回収等による財源増			△46.4億円	46.4億円	
減価償却による財源増		△24.2億円	△110.6億円	134.8億円	
地方債償還に伴う財源振替			52.1億円	△52.1億円	
資産評価替えによる変動額	△15.1億円				△15.1億円
無償受贈資産受入	5.8億円				5.8億円
その他					
期末純資産残高	1兆3,890.0億円	850.2億円	5,538.6億円	△377.4億円	7,878.6億円

行政コスト計算書の(差引)純経常行政コストの額と一致

扶助費などに充てた国県補助金

資産を時価評価した結果、取得時よりも資産価値が増減することにより、その分純資産額も増減する。

※科目振替とは、公共資産等整備と一般財源の間でそれぞれに充てた財源の原因別の変動を示しています。

「地方債償還に伴う財源振替」は、公共資産等整備のための市債の返済を一般財源でおこなったため、「公共資産等整備一般財源等」へ振替えるものです。

●財務書類4表の関連



財務書類の4表には、次のような相互関係があります。

貸借対照表の純資産は純資産変動計算書の期末残高と一致し、貸借対照表の歳計現金は資金収支計算書の期末残高と一致し、行政コスト計算書の純経常行政コストは純資産変動計算書のそれとそれぞれ一致します。

★資産老朽化比率

土地を除く有形固定資産合計額に対する減価償却累計額の割合を算出することにより、その資産が平均どの程度の年数が経過しているのかを表しています。

以下の5市の中では、藤沢市の施設が最も老朽化が進んでいることがわかります。

藤沢市	茅ヶ崎市	鎌倉市	秦野市	厚木市
52.7%	49.5%	50.1%	48.2%	50.9%



★受益者負担比率

経常収益は市民のみなさんが支払う使用料や手数料などの受益者負担金の総額です。行政コストに対する割合を算出することにより、受益者負担の割合を表しています。

経常収益では経常行政コストの4.5%しかまかなえていないことがわかります。

しかし、藤沢市ではごみの有料指定袋制などが導入されていることなどから、他市に比べて比率が高くなっています。

藤沢市	茅ヶ崎市	鎌倉市	秦野市	厚木市
4.5%	3.2%	3.4%	3.3%	3.0%

藤沢市の割合は
4.5%です



★市の決算と財務書類のちがいは



現在、市の決算は現金ベースです。お金が入ってきて収入となり、お金が出ていって支出となります。

入ってきたお金を支出に充てるため、収入と支出は同じ額となります。

貸借対照表では、土地や建物などの資産がどのくらいあるか、債権がいくらあってそのうち現金化されたものがどのくらいあるか、借金が全体でどのくらいあって、いくら残っているかなど、財務書類では全体の財政状況がわかるようになります。

全体の債権額と実際に現金化された額(収入済額)との差額は、貸借対照表では未収金となり、その後現金が入ることによって未収金が減っていくこととなります。

4 藤沢市の行政サービスにはどのくらいのコストがかかっているのだろう？



ごみの収集や福祉サービスの提供など資産の形成に結びつかない行政サービスにどれだけ費用(コスト)がかかり、それをどのような収入でまかなったかを表すものが行政コスト計算書です。

●平成24年度 藤沢市 普通会計行政コスト計算書 〔自平成24年4月1日至平成25年3月31日〕

【経常行政コスト】

		総額	構成比率
貸借対照表に計上した退職給与引当金の前年度からの増減額に24年度の退職手当を加算したもの	(1)人件費	214.7億円	19.2%
	(2)退職手当引当金繰入等	19.2億円	1.7%
	(3)賞与引当金繰入額	13.1億円	1.2%
	小計	247.0億円	22.1%
市の施設等を老朽化などにより補修する経費	(1)物件費	198.6億円	17.7%
	(2)維持補修費	9.5億円	0.9%
	(3)減価償却費	134.8億円	12.0%
扶助費などの経費	小計	342.9億円	30.6%
個人や団体等の活動に対して交付する補助金など	(1)社会保障給付	307.5億円	27.5%
	(2)補助金等	47.3億円	4.2%
	(3)他会計等への支出額	151.7億円	13.6%
	(4)他団体への公共資産整備補助金等	10.8億円	1.0%
市債の支払利息	小計	517.3億円	46.2%
貸借対照表に計上した回収不能見込額の前年度からの増減額に24年度の不納欠損額を加算したもの	(1)支払利息	12.9億円	1.2%
	(2)回収不能見込計上額	△0.8億円	△0.1%
	(3)その他行政コスト	0億円	0.0%
小計	12.1億円	1.1%	
経常行政コスト a		1,119.3億円	

【経常収益】

使用料・手数料 b	39.5億円
分担金・負担金・寄附金 c	10.5億円
経常収益合計 (b + c) d	50.0億円
d / a	4.5%
(差引)純経常行政コスト a-d	1,069.3億円



差引の「純経常行政コスト」は、市税などの一般財源や国県からの補助金などでまかっています。

さて、市民1人あたりの行政コストはどのくらいかかっているでしょうか。
下のグラフを見てください。

●平成24年度 藤沢市 普通会計 行政コスト計算書 における市民1人あたりの経常行政コスト



市民1人あたりの
経常行政コスト
合計 **266,383円**

5 市の財産のうち現金の動きを見てみよう

貸借対照表の左側(借方)、資産の部に計上されている現金をその支出の性質から3つにわけて、現金の変動を表すものが、資金収支計算書です。

資金収支計算書は、引当金や減価償却費などの現金でない支出を含まないことから、ほかの財務書類とちがい、現金のみの表示となっています。市の決算書に一番近い財務書類といえます。

●平成24年度 藤沢市 普通会計資金収支計算書

〔自 平成24年4月 1日〕
〔至 平成25年3月31日〕

1.経常的収支の部	
支出合計	935.1億円
収入合計	1,150.6億円
経常的収支額	215.6億円

翌年度繰上充用金増減額	-
当年度歳計現金増減額	11.0億円
期首歳計現金残高	72.9億円
期末歳計現金残高	83.9億円

2.公共資産整備収支の部	
支出合計	150.2億円
収入合計	76.3億円
経常的収支額	△73.9億円

3.投資・財務的収支の部	
支出合計	162.5億円
収入合計	31.8億円
投資・財務的収支額	△130.7億円



期末は年度末をさし、それに対して年度初めのことを期首といいます。

公共資産整備収支と投資・財務的収支は赤字となっており、その赤字分を経常的収支の黒字分で補っていることがわかります。

ホームページで
ご覧ください **「藤沢市の借金時計」**

❓「借金時計」って一体どんな時計？ 借金で買った時計なの??

自治体の借金残高が1秒単位にどう変わっていくのかを
デジタル時計のように表示したものを「借金時計」といいます。

インターネットでは、「日本の借金時計」や「地方公共団体の借金
時計」などを見ることができます。



藤沢市のホームページにて公開していますので、
みなさん是非一度ご覧ください！

藤沢市の市債(借金)の残高は

2014年 3月 5日 12時 22分 0秒 現在

1392億 9874万 8249円 92銭 です。

2種類の表示ができます。表示したい項目の○をクリックして選択してください。

- 一般会計
- 全会計＝一般会計＋特別会計＋企業会計

家計の収支にたとえると

- 一般会計・生活費に使うお金
- 特別会計・教育資金など区別して使うお金
- 企業会計・生活費と切り離している商売のお金

一時間あたり 約 64万 3846円 減っていきます。

一秒あたり 約 179円 減っていきます。

借金時計のこまかい内訳は[こちら](#)

※参考：[年度別市債借入・償還及び残高の状況（一般会計）](#)

アクセスは、[藤沢市ホームページ](#)>各課のご案内>財政課>「借金時計」の公開

URLは<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/zaisei/page100095.shtml>

または「藤沢市の借金時計」をキーワードにして検索するとご覧になれます。

※各ページの表中の数値について、その積み上げと合計が一致しないところがあります。

わかりやすい 藤沢市の財政2014

平成26年度予算と平成24年度決算のデータ使用により作成
2014年3月 発行

発行／藤沢市財務部財政課

〒251-8601 藤沢市朝日町1-1

電話 0466-25-1111(代表) 内線2302

FAX 0466-50-8405

E-mail zaisei@city.fujisawa.kanagawa.jp

再生紙を使用しています

ふじさわの
財政のこと、もっと
理解しなきゃ…

